

## 略歴

原田憲一（はらだ けんいち）

専門分野：海洋地質学、資源人類学、災害文化論、比較文明論、老年哲学

1946 年生まれ

1970 年京都大学理学部地質学鉱物学教室卒業（卒業研究：フズリナ石灰岩の微細構造の解明）

京都大学大学院理学研究科修士課程進学

米国ウッズホール海洋学研究所留学。海洋地質学と渦鞭毛藻化石について学ぶ。

1972 年京都大学大学院修士課程復学

1974 年 同 修士課程修了（日本周辺太平洋の表層堆積物中の渦鞭毛藻化石の分布に関する研究で理学修士号取得）

1977 年 同 博士課程修了（太平洋産マンガン団塊の成因に関する研究で理学博士号取得）

1978 年アレキサンダー・フォン・フンボルト財団（当時西独）奨学研究者としてキール大学古生物学地質学教室留学。オイゲン・サイボルト教授（旭硝子財団ブループラネット賞第3回受賞者）に師事

1979 年米国ワシントン州立大学地質学教室客員講師。ロナルド・ソーレム教授の下でマンガン団塊の研究を継続

1980 年山形大学理学部地球科学科・助教授（応用地学講座）。大町北一郎教授から資源科学の考え方を学ぶ。資源調査会海底鉱物資源部会専門委員、山形県総合開発審議会委員などを歴任。関西国際空港海底地盤調査に参加

1990 年 同 地球環境学科（学科名称変更）・助教授。文部省重点領域研究「災害多発地帯における『災害文化』の研究」（研究代表者：首藤伸夫東北大学教授）、同「環境変動と文明の盛衰」（研究代表者：伊東俊太郎国際日本文化研究センター教授）等に参画。NZ、壱岐・対馬、済州島、朝鮮半島南部等における災害文化および資源人類学に関する野外調査を実施

1995 年山形大学大学院理工学研究科・教授。山形県、新潟県、長崎県の災害多発地帯における神社の配置を災害文化の観点から調査

2002 年京都造形芸術大学芸術学部へ異動（教養教育担当）。山陰海岸ジオパーク推進協議会専門部会、文科省重点領域研究「モノ学の構築」（代表者：鎌田東二京大こころの未来研究センター教授）に参画。京都伝統の森推進協議会副会長

2012 年 同 定年退職

2015 年至誠館大学（山口県萩市）学長、比較文明学会副会長

2018 年 同 退職。比較文明学会会長

2020 年 会長退任、現在に至る。